

Biological Diversity
UDONO Reeds Report

価値ある水辺を創る

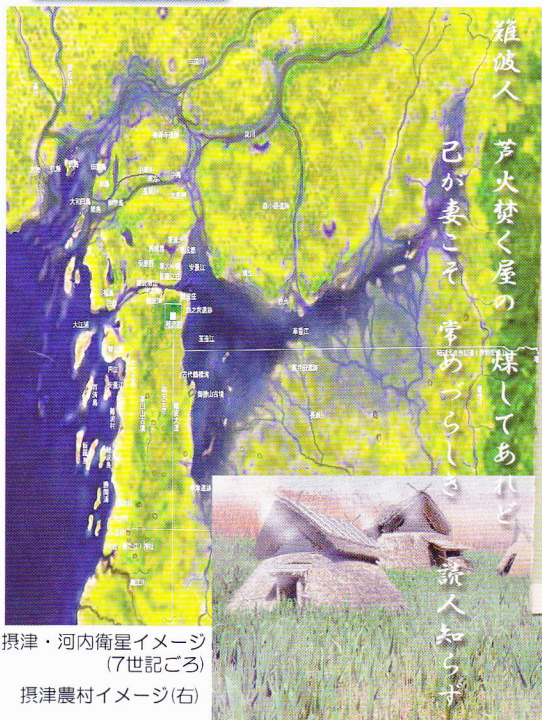
うどの 鶺殿を遊ぶ



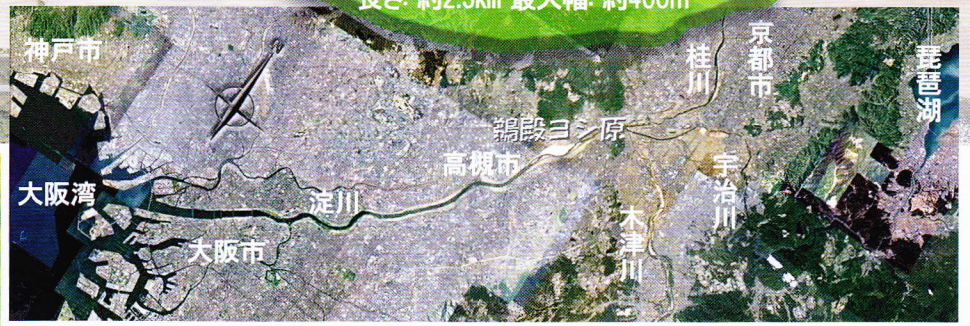
鶺殿ヨシ原研究所

この冊子は 財団法人河川環境管理財団の運用する平成22年度 河川整備基金の助成によるものです

鷺殿ヨシ原の価値 歴史的景観



撰津・河内衛星イメージ (7世紀ごろ)
撰津農村イメージ(右)



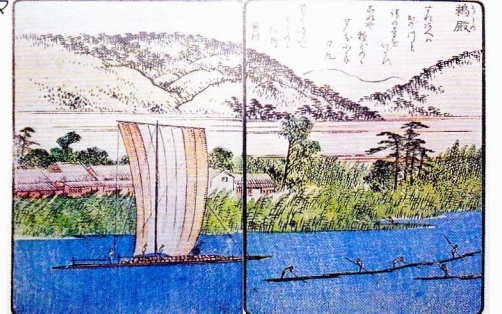
日本史を代表する歴史的景観



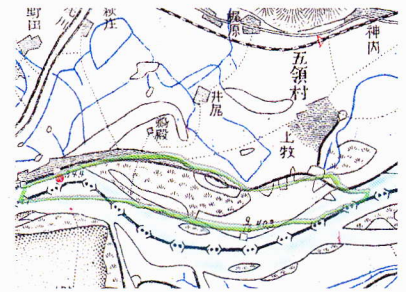
土佐日記(定家写本)

鷺殿年表

- BC88 崇神10 武埴安彦らの反乱軍は朝廷軍に破れ 流れる死体が鷺のようだったので鷺河(淀川)と呼ばれた
- AD611 推古19 百濟人の味摩之は 呉(中国江南)より伎楽を伝え 雅楽の原型となる
- 702 大宝2 治部省雅楽寮(国立音楽大学)開校 箏の蘆舌材料に最適なヨシを鷺殿で発見か?
- 901 昌泰4 右大臣菅原道真 左遷され大宰府へ下る途中鷺殿を河舟で通過
- 936 承平5 紀貫之左遷先の土佐より帰京を綴った「土佐日記」に鷺殿の名が記録として初登場
- 淀川舟運の重要な港として鷺河にある殿(旅籠)の意味で「鷺殿」に この前後に御加草子の主人公一寸法師が撰津住吉浜より京へ上る途中立ち寄りか?
- 1582 天正10 山崎(天王山)合戦で羽柴軍は秀吉を先頭に鷺殿ヨシ原を密かに駆け抜け勝利した 5mを越す鷺殿のヨシは馬上の槍も 旗指物も見事に隠し 一気に明智軍の側面に出た
- 1591 天正19 その秀吉は千利休に切腹を命じ その夜 利休は京から小舟で鷺殿を通過
- 1690 元禄3 「箏の蘆舌は古くより撰津国鷺殿に産する蘆を用いる」楽家録(安倍季尚著)とある
- 1799 寛政10 「撰津名所図会」に鷺殿村が蘆舌用の蘆を朝廷へ献上している事が書かれている
- 1971 昭和46 建設省淀川改修開始 結果冠水がなくなり鷺殿は乾燥化しヨシが絶滅の危機
- 1976 昭和51 高槻市環境保全課の要請で小山弘道 鷺殿を調査 以後調査保全活動が続く

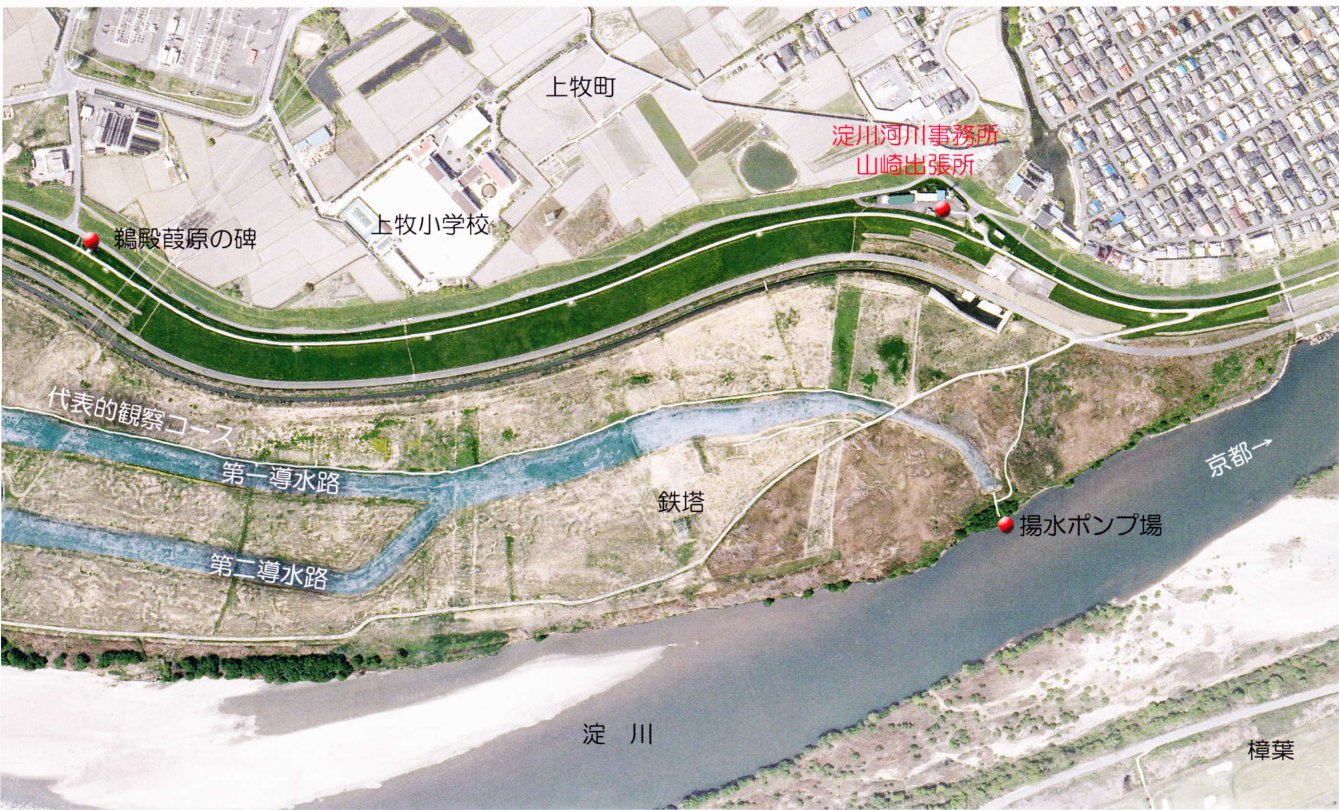


淀川兩岸便覧(1863) 芦を小舟が分け入っていくと 芦のすれ合う音がこちよひ こちが鷺殿である カル



明治中ごろの淀川改修前の地図と現在の鷺殿地形

鷺の啼くや
鷺殿の河柳
蕪村



鶺鴒葦原の価値
ヨシりよく
知らなかつた葦力



ヨシ・あしどっち?

あしがヨシになったわけ
鎌倉時代中期 主に近江のヨシ
商人の間で「あし」は「悪し」
で縁起が悪い そこで反対の
「善し」と呼びだしこれが全
国に広まり「よし」が定着し
たようです
これを忍み言葉と言い 他にも
スルメを博打打ちの間では 磨
る目(サイコロ)の反対「アタリ
メ」と呼ぶなどがあります

明治に植物学が始まり ヨシを
採用 駄洒落が公用語になっ
たのです

どちらもOK
だからヨシとあしは同じ どちら
でも善し悪しはありません
植物学のときは「ヨシ」
文学や古典では「あし」と読
んでいます

鶺鴒では ヨシ産地だったの
でヨシ原・ヨシ刈りなどヨシ
と呼びます

よしはがた
ことあしと
浦にすむ
にあたる
あまのし
わさを
前権僧正
玄円

中国では 春は「葭」 夏の盛りは「蘆」(芦は略字) 枯れた冬は「葦」の漢字を充てます



人とヨシの文化



古代オリエントやエジプト シルクロードなど 人類文明発祥地
には ヨシ原があり ヨシを文化や生活に採り入れてきました
特に豊葦原の日本はヨシ原に恵まれ 煮炊きの燃料 屋根葺き材
料や庶民の家屋の重要な壁材でした
また 古代ヨシ原は信仰の対象 古事記や日本書紀で神代初期に
現れる神 ウマシアシカビヒコシノミコトは ヨシの芽を神格化
した生命の象徴であり 神社の屋根はヨシ葺きが古代の姿です
中国から伝わった陰陽思想でも ヨシは邪気(鬼)をはらうこと
から初詣でおなじみの破魔矢も本来はヨシの矢です
近年 ヨシ製品は中国からの輸入品が大半で こうした経済推移
も ヨシ原絶滅の要因です

ヨシ(あし)

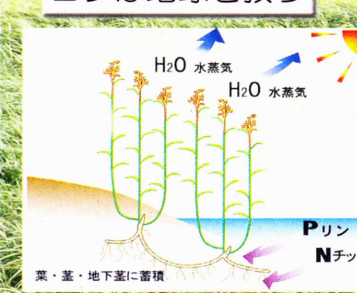
イネ科・ヨシ属
暖帯から亜寒帯に
かけて広く分布し
湖岸や河川などの
湿地帯に生育する
背の高い多年草
Phragmites australis
(communis)

古代より生活や歴史
に密着した植物
近年環境植物とし
て注目されている



葦芽(アシカビ)
ヨシの芽

ヨシは地球を救う



ヨシは水質浄化に役立つ植物のひとつです
水中に溶けているリンや窒素を根から吸収
茎や地下茎に蓄積するので 水質浄化に役立
っています
そのほか重金属やダイオキシンなどの公害物
質などを固定する能力もあります

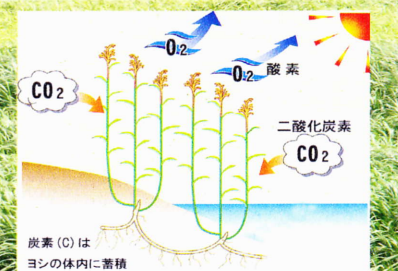
さらにヨシ本体に加え ヨシの表面のバクテ
リアや貝などの小動物も水質浄化に参加
ヨシ
原全体で水質浄化システムを構築しています

導水路の上流の濁った水



また ヨシの地下茎には地上の空気が循環する
ので根の先から酸素を泥の中に供給 そこに住
むバクテリアを活性化し 有毒なアンモニアガ
スを分解 空気中に逃す脱窒作用も重要です

鶺鴒ヨシ原に流れる導水路では やや濁っている
淀川の水が ヨシの根元を通過する間に浄化
地下水となって再び淀川本流に還流していま
す これは巨大な水質浄化システムで その費用
対効果は計り知れません

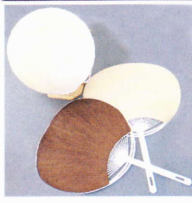


水質浄化とCO2固定

ヨシは 地球温暖化の原因とされている二酸化
炭素を大量に吸い込み 体内に炭素を固定する
能力が極めて大きな植物
夏のヨシ原は光合成で盛んに作り出された酸
素が大量にあります

このようにヨシは体内に窒素やリン・炭素を
固定しているので ヨシを刈り取り 水辺から
他の場所に移すことが大切なこと
ヨシ刈りやヨシ製品は鶺鴒を 地球を救います

ヨシ工作



鶺鴒の価値 雅楽を支えるヨシ

ひちりき 箏

指孔 前7 後2
管長 18.2cm 6寸
材質 煤竹
雅楽の主旋律楽器



ろぜつ 蘆舌

箏のリード
全長 55mm
直径 11.5~
12.7mm
材質 ヨシ



古来 蘆舌のヨシ
は鶺鴒産を
最良とする

日本には
奈良時代
唐より
遣唐使や
留学僧が
持ち帰り
伝わる

日本唯一の蘆舌産地



雅楽とは

ユネスコ無形文化遺産に認定された雅楽は 上代日本から伝わる簡素な歌舞と 唐や高句麗などからの外来の華麗な舞楽があります 舞楽は奈良時代に遣唐使や留学僧が持ち帰り 平安中期に日本化した歌・舞・管絃の総合芸術です

箏とは

宮中の儀式や饗宴に活躍する雅楽の箏は 奈良時代(701年)に設けられた「雅楽寮」(国立音楽大学)の記録に箏の名が見られます 箏は古代オリエントに生まれ 漢の時代に中国に伝承されたヨシを吹き口(リード)にした管楽器(リード楽器)です

その箏は手のひらに収まるほど小さな楽器ですが 音量は大きく そのため雅楽の主旋律を受け持つ重要な楽器です

蘆舌とは

箏の特徴は その独特な音色にあります これはダブルリード楽器共通の音質で オーボエやファゴットのように哀愁を帯びた牧歌的な響きがあります ただ初心者練習中の音だけは別で あの清少納言は まるでクツムシのように髪の毛逆立つほどいやだとその音を酷評しています この特徴をつかさどるのがヨシでできた吹き口(リード)の蘆舌です ロにくわえて音の出る方は平らになった上下二枚のリードで箏本体に差し込むほうは筒状のままです オーボエなどは二枚の平らなヨシをパイプにかはせて糸で縛りますが 蘆舌は片方が筒状なのでコアリードです



鶺鴒で採れる蘆舌用ヨシ



地元が刈り取り 合掌造りで燻蒸 蘆舌作り 奥田貞次氏 元宮内庁楽部首席楽長 故東儀兼彦氏
1月に刈り 3年ほど困炉裏の煙で燻蒸した煤ヨシを切り 片方を熱でつぶして削り 蘆舌が完成 合計数年を経て演奏される

蘆舌は短く切ったヨシの茎の片方を熱しながらゆっくりつぶして端をべしゃんこにします これをヒシギといい 専用のやっこでつぶし 小刀で薄く削ります これは微妙な作業で 古来より蘆舌作りには 熟練の技術を必要とします

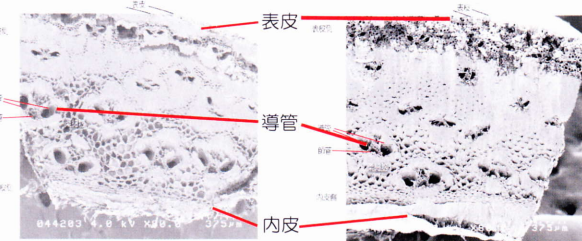


工程
と
ひしががね

箏やオーボエもリードは奏者が作るのが本来でこれらの楽器の難しさと奥深さがあります

蘆舌用ヨシの分析

鶺鴒のヨシが蘆舌に最適であることは 江戸時代の文献に見られ おそらく雅楽伝来以来のことと思われます



柔軟組織(空隙)が多く強度のない普通品 蘆舌用は組織密度が高く均一(鶺鴒産ヨシの断面電子顕微鏡写真 厚み約1mm 倍率80倍)

なぜ鶺鴒のヨシだけが適しているのでしょうか それは 背が高く太いというサイズの違いもありますが 厚みがあり 弾性に富み割れにくいことが大きな要素 左の写真は ヨシの茎断面の電子顕微鏡写真です 約80倍で撮影 良質の茎は 導管や師管などの空洞が少なく 組織が密で均一(写真右)であることがわかります 組織が粗雑(写真左)だとひしぎ時に中央が割れ とても蘆舌に加工できません

鶺鴒に生えているヨシならどれでも適している訳ではありません ごく限られた場所の中の 何百・何千本に一本なのです この貴重な蘆舌用ヨシを保全することが 世界無形文化遺産を存続させる大きな要素です

箏の来た道

箏は古代オリエントに生まれ シルクロードを東西に伝播 中国や朝鮮半島から極東の日本に伝わる



UDONO de Gagaku



2000年 雅楽演奏会とヨシ原焼き 大阪楽所



2004年雅楽コンサート ヨシ・水・音 桑陽雅楽会



2008年 雅楽と鶺鴒のお話 大阪楽所



2010年 アトリエMay 雅楽演奏会



宮内庁 式部職 楽部(重要無形文化財)

鶺鴒の危機! ヨシが無くなる

- 1971年 淀川改修により河床が低下
鶺鴒は 洪水時の冠水がなくなり乾燥化
- 1973年 乾燥化のためつる草のカナムグラ
が大発生 ヨシを倒し
ヨシが減少

ヨシ群落
は60%

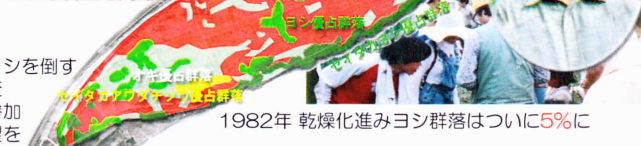


1974年 ヨシ群落は20%に減少

- 1975年
高槻市は衰退したヨシ原の調査を
大阪市立大学附属植物園勤務の
小山弘道(植物生態学)に依頼
自然保護相談員に任命
ヨシ原調査を開始



1982年

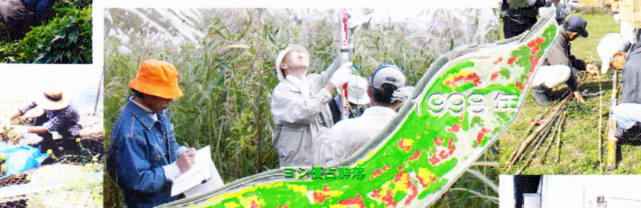


1982年 乾燥化進みヨシ群落はついに5%に

こうした小山弘道の調査・保全活動に学生や一般市民の
参加が始まる 鶺鴒ヨシ原保全活動はまず市民の手で

- 1996年 調査・保全・広報活動に一般市民ボランティア多数参加
導水路周辺に試験区を設け生育・植物種調査開始

- 1998年 参加市民が「鶺鴒クラブ」を発足
会報「うどの通信」発行 現在に続く
ヨシ群落15%に回復



1999年



鶺鴒ヨシ原研究所

設立目的

鶺鴒ヨシ原のヨシ群落や 貴重な自然環境を保全する
鶺鴒に関する雅楽や歴史・文化を継承し広める

- 1999年 雅楽関係者との出会い
- 2000年 大阪楽所演奏会(左p)
各地に展览展示
- 2001年 鶺鴒ヨシ原研究所設立
道鶴町に研究所・鶺鴒クラブ事務局を開設

- 2004年 高槻市より感謝状
おおさか環境賞奨励賞受賞
ヨシ群落22%に

- 2005年
みどりの愛護で皇太子
殿下に鶺鴒を説明
「愛・地球博」に
出展・講演



2004年 宮内庁楽部 東儀俊美氏視察



現在ヨシ群落は
20%以上に回復
カナムグラとの戦いは続く



2010年 宮内庁楽部 東儀雅季氏と
交流会



官民一体のヨシ原再生

- 国交省近畿地方整備局淀川河川事務所(現在)
- 1990年 建設省河川局「多自然型自然管理」提唱実施
- 1994年 淀川工事事務所 揚水ポンプ計画発表

- 1996年 揚水ポンプ設置・導水路開削工事開始



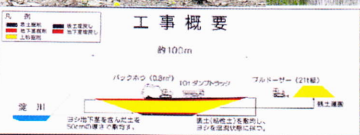
ポンプ排水口(中央)と水路造成

- 1997年 河川法改定 治水・利水に環境が加わり
生態系の保全が法律上義務付けられる
淀川環境委員会設置 研究者と河川管理
者が共同で検討 小山弘道委員に

- 1998年 揚水ポンプ本格稼働
地下水水位・気象観測機器設置



- 1999年 ヨシの生育面を淀川の水位に近づける
「切り下げ」工事始まる



切り下げ地(鶺鴒下流部)
1999年~2010年度

- 2010年 揚水ポンプを1基増設
- 2011年 2基のポンプでヨシに
豊富な水を届け
ヨシ優先群落の拡大に
道を拓いた



ヨシ原再生35年の成果

ヨシ群落の絶滅を止め 生物多様性の環境と 蘆古用ヨシの品質を守る多くの市民ボランティアと活躍中

鶺鴒の価値
ある水辺を創る

価値ある鶴殿の自然
多様で貴重な生物群

ヨシの仲間の見分け方



ヨシ(イネ科ヨシ属)
穂は黒っぽくフワフワ
葉は幅広く垂れる
莖はまっすぐで節間は長い



オギ(イネ科ススキ属) 荻
穂は真っ白でスキのよう 芯は金色
葉は細く中央に白い線 節が膨らむ



セイタカヨシ(イネ科ヨシ属)
背高蘆 別名 西湖の蘆
穂は細く 葉は全て上を向く
節は多く 冬でも枯れない



オドリコソウ(シソ科) 踊子草

鶴殿だけの貴重な植物



絶滅 アゼオトギリ(オトギリソウ科)
畦弟切り 鶴殿で見られる



絶滅危惧Ⅰ類



トネハナヤスリ(ハナヤスリ科)
利根花鐘



イガクサ(カヤツリグサ科)
稗草

鶴殿で見られる大阪府レッドデータブックの植物群



鶴殿の秘密

鶴殿のヨシは ウドノヨシと呼ばれ別種とされていたほど 背が高く太いヨシが育つ秘密は 砂地の上に堆積した分厚いシルト層(肥沃な黒土) 地下0.5m~2mあたりに地下茎が発達 地上部をしっかりと支えている

絶滅危惧Ⅱ類



ノウルシ(トウダイグサ科)
野漆

準絶滅危惧



ハンゲショウ(ドクダミ科)
半化粧 半夏生



タヌキマメ(マメ科)
狸豆



フトイ(カヤツリグサ科)
太蘭

要注意類



カワチシャ(コマンナグサ科)
川荻 環境省準絶滅危惧



ミソコウジュ(シソ科)
溝香常



ヒメナミキ(シソ科) 姫波来



ミコシガヤ(カヤツリグサ科)
御興茅



サデクサ(タデ科) 摩草



ヤガミスゲ(カヤツリグサ科)



タコノアシ(ユキノシタ科)
蛸の足

鶴殿の不思議



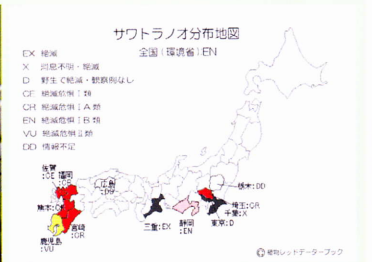
小山 弘道
鶴殿ヨシ原研究所所長
植物生態学者

鶴殿のヨシは 古来から 雅楽楽器 筆葉の蘆舌に用いられ 今でも宮内庁 雅楽(国の重要無形文化財)を支えています
なぜ鶴殿のヨシが妙なる音を奏でるのか明らかではありませんが 三川(木津川・宇治川・桂川)が長年にわたり 山地から運んできた堆積物で創った肥沃な河川敷に生育しているからでしょう

昭和12(1937)年 牧野富太郎博士も鶴殿を訪れ それまで別の植物とされていたものをヨシと改めるほど 他に異なっていたと記載されています 最高草丈568cm(2010年)

ヨシは日本特有の植物ではなく 温帯地域を中心に 亜熱帯 亜寒帯に広く分布しています
その中で 鶴殿のヨシが日本の 世界の「音の文化」に重要な役割を果たしてきたことは特筆すべきことです

ほとんどが公園化 ゴルフ場化した淀川河川敷の中で「鶴殿のヨシ原」がなぜ多くの生き物が暮らすヨシ原として残りえたか 近年まで地元がヨシス・スタレを作っていたからです



蘇った サワトラノオ(サクラソウ科) 澤虎の尾

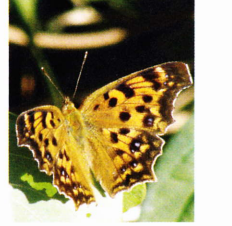
環境省絶滅危惧ⅠB類のサワトラノオは全国でわずか400個体が確認されているだけ このままでは近い将来日本から絶滅するサワトラノオが鶴殿で36個体(2010年)確認されています これは 導水路工事により 地中にあった数十年前の種子が発芽したようです 鶴殿では工事による復活種がいくつか見られます



多様な昆虫



ツマグロヒョウモン♀(産卵中)



キタテハ♂



モンシロチョウ♀



ヘビシジミ♀

キタテハの食料はヨシの天敵カナムグラ



クツムシ♂ クツムシの好物 クス(単食)



青柳 正人 (昆虫学者)

鶴殿=ヨシ原というイメージは強いだが生物多様性から見るとヨシ以外に雑多な植物が混在しているのが望ましい。ここでは厄介者扱いの植物と共存する昆虫を紹介しよう。鶴殿には普通に見られる蝶の中間のキタテハ。本種の幼虫は目の敵にされているカナムグラを専門に食べる。同じくツル植物のクスは海外で侵略的外来種として大暴れの国際的な嫌われものである。このクスの茂みに棲息しているのがクツムシ。唱歌の「虫のこえ」にも登場する有名な鳴く虫であるがかつての「有名な虫」も今や大阪府のレッドデータブックに掲載されるほど数が少なくなった。本種は鶴殿に数多く棲息しているがクスの葉を主食としている。生物多様性は生物同士の結びつきの多様さでもある。そうした結びつきを見ていくとカナムグラもクスも生物多様性に貢献していることがわかる。人間は邪魔者扱いするが生態系の中では邪魔者ではない。



シオカラトンボ♀



コアオハナムグリ



トノサマバッタ♀



ツコムシ♂



ヒメウラジャノメ♀



ヌートリア



タヌキ



シベリアイタチ



ヒバリ



アカギツネ



ハイタカ



オオタカ



ハヤブサ



ツバメ



オオヨシキリ



アオサギ



カルガモ



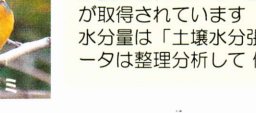
クサガメ



アメリカザリガニ



トノサマガエル



カワセミ



渡辺茂樹 動物生態学者

鶴殿ヨシ原イタチ生態調査

西日本(木曾三川以西)のイタチはニホンイタチ *Mustela itatsi* とシベリアイタチ *Mustela sibirica* の2種であり、前者は山地、後者は平野(都市を含む)にすむわけて分布する。だが鶴殿では1980年代に2種が同所的に分布。1990年代の調査ではシベリアイタチのみで2010年は4/5/7月の3回にわたって罠捕獲調査を行った結果は再びシベリアイタチのみであり、ニホンイタチは確認できなかった。ただ1980年代なら1990年代と異なり、今回は幼獣を捕獲できた。即ち、シベリアイタチが鶴殿で繁殖もしていることを確認できた。



シベリアイタチ ♀ (チョウセンイタチ)

本年のシベリアイタチの総捕獲頭数は6頭で成獣4(雄2・雌2) 幼獣2(雄のみ)である。密度は0.075頭/haだ。ただしこれはあくまで総捕獲数。各月の密度はもっと低い。4月は0.0375頭/ha 5月は0.125頭/ha 7月は0.025頭/haだ。けれど使用した罠の数が12と調査面積の割には少ないので、暴露されていない個体がながいことが想定される。この数字はあくまで最小値である。

野鳥の宝庫 動物の楽園

鶴殿気象観測

鎌田 忠彦 元日本気象協会職員



広大な河川敷ヨシ原に分布している種々の植生が、どのような気象水象環境下で年々生育しているのか、順次実施されるヨシ原の保全対策の結果を評価するためにも、年毎の生育環境の違いを定量的に把握する必要があるとの考えで、実際に河川敷内の複数ポイントに機器を設置して観測を開始したのが1998年5月中旬でした。

観測項目と地点数は気温・湿度・風向風速・地中温度・導水路水位/水温が1地点、地中温度のみが2地点。それに河川敷端の堤防沿いを流れている新川の水位1地点です。これとは別に、河川敷内の十数地点には観測用井戸が設けられていて、自動水位計によりヨシ原のほぼ全域の地下水水位データが取得されています。また以前には、植生の生育条件で重要な土壌中の水分量は「土壌水分張力」として取得しています。これらの膨大な観測データは整理分析して、保全事業のための基礎資料となります。

新たな価値を 鶴殿から発信

鶴殿のヨシ原焼き
終戦直後の開始 後農家に類焼し中止
1975年ヨシ原保護のため再開
近隣地域の苦情(スス害)で一旦中止
現在ヨシを倒し2月の最終日曜に実施



目的: ヨシ原保全と害虫駆除 不慮の火災防止
地元が実施しヨシは増加したが大半は利用されずに灰に
そこでわずかでも役立てようとヨシ紙に加工しています
毎年多くのボランティアが 年明けからヨシ焼きまでの間
大急ぎで刈取り ヨシに新たな価値を与えています

ヨシはカミに

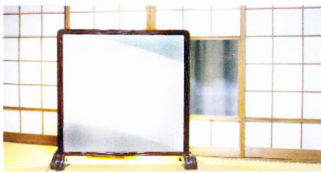
私たちは ヨシを刈取り そのヨシで紙を作っています 毎年ボランティアが多く集まりヨシ刈をします



このヨシ紙は、越前和紙の伝統技術で製紙され
それぞれ専用のヨシ紙に製品化されます

鶴殿のヨシ紙は 数あるヨシ紙の中でも 色白
で質が良く上品で格調ある風合いが評判です

透かしや漉き合せ紙・雲華紙などを使った
襖などの表具は独特の空間演出で大好評



そのヨシはパルプ工場でヨシパルプに
それを上質の木材パルプと混ぜ製紙され
たのが鶴殿のヨシ紙です



鶴殿ヨシ紙

鶴殿のヨシ紙は色白で
印刷用紙はインクジェット専用紙と
オフセット専用紙を開発
名刺・葉書・印刷物に
さまざまなヨシ紙製品があります



環境をテーマにした野外音楽フェス
ap bank fes '09 (2009年7月 静岡県つま恋) のオフィシャルグッズに鶴殿
ヨシ紙を使ったレターセット(写真右)が採用 販売されました



松岡表具店
〒569-0825 大阪府高槻市栄町4-16-1
TEL:072-693-2326 HP: <http://fusumax.jp/>

山田兄弟製紙株式会社
〒915-0235 福井県越前市不老町15-4
Tel: 0778-43-0043 Fax: 0778-43-0044
E-mail: papyrus@yamada-keitei.com
HP: <http://yamada-keitei.com>

観察会参加者募集

鶴殿は大都市近くに残された貴重な
自然環境 高さ5mを越すヨシの森を
抜け 絶滅危惧種を踏まないと歩け
ないここだけの観察会 植物生態学者
がご案内します ぜひご参加ください

月例観察会: ほぼ毎月誰でも参加できる自然観察会を実施しています
団体観察会: 学校や環境団体などのオリジナルな観察会
コース・打ち合わせや下見など お気軽に相談ください



市民団体の研修に

教育機関の課外自然観察授業に



人と自然を橋渡し
エコツーリズムに



ヨシ焼き後の焼跡観察会

鶴殿クラブ会員募集

設立: 1998年
会長: 長屋昭義 顧問: 小山弘道
事務局: 谷岡寿和子
活動目的: 鶴殿ヨシ原研究所が実施する
ヨシ群落や貴重な自然環
境の調査・保全・広報活動
のサポート
会報「鶴殿通信」発行・配信
会費: 4,000円/年間(4月~3月)



河川レンジャーと
しても

○調査・保全活動
直接調査保全活動のできる人たちは 小山弘道を中心
に毎週火曜日に活動中
活動内容: 試験区のヨシ測定・地下水位測定・
つる草抜き・ポンプ場/水路整備など
ヨシや雅楽・環境保全など鶴殿に興味があれば だれでも会員 鶴殿に来られない遠距離会員も多数います

○イベントサポート
鶴殿を紹介する「鶴殿ヨシ原フェスタ」や
展示会への参加・運営・作品製作など
観察会などのガイドサポート
雅楽演奏会や環境会議傍聴など

ボランティア募集

個人・家族・仲間・団体・企業
どなたでも大歓迎

鶴殿の保全活動は非常に多くの人手を必要としています
鶴殿クラブに入らなくても たった一日だけでも 難しいことはなし
ピクニック気分でお子様連れでもふらりと鶴殿にお越しください
いつでも大歓迎です 一年中楽しいこといっぱいです

特に1月2月はヨシ刈りで多くの人手が必要 3月からはヨシの天敵
カナムグラを一本一本手で抜く奇妙な体験が続きます



こうした私たちの手で日本の伝統文化・世界無形文化遺産を継承しています

鶴殿を遊ぶ

こんな広い空の野遊びができるのは今ではとても贅沢なこと
ただ 気持ちよく遊ぶためには それなりの心がけも必要
鶴殿は淀川の河川敷で湿地帯 手付かずの自然の残るワイルドな場所
服装や靴などの持ち物にも一工夫が トイレも集合解散場所の山崎出張所だけ
この不便さが1300年の伝統を守って
いるのかもしれない
究極の遊び場「鶴殿ヨシ原」へ



お問い合わせ・お申し込み

鶴殿ヨシ原研究所・鶴殿クラブ
TEL 072-660-6011 FAX 072-891-4751

〒569-0011 大阪府高槻市道鶴町 4-12-5
e-mail: udono@ares.eonet.ne.jp
URL <http://udono.jimdo.com>

発行 鶴殿ヨシ原研究所
協力・資料提供(順不同)
国交省近畿地方整備局 淀川河川事務所・淀川資料館
財団法人河川環境管理財団近畿事務所
宮内庁式部職楽部 ユニチカ株式会社中央研究所
山田兄弟製紙株式会社 一般社団法人AP/バンク
松岡表具店 青柳正人 野宮昭治 秋間佐恵子 畑俊一郎
制作 オフィス963